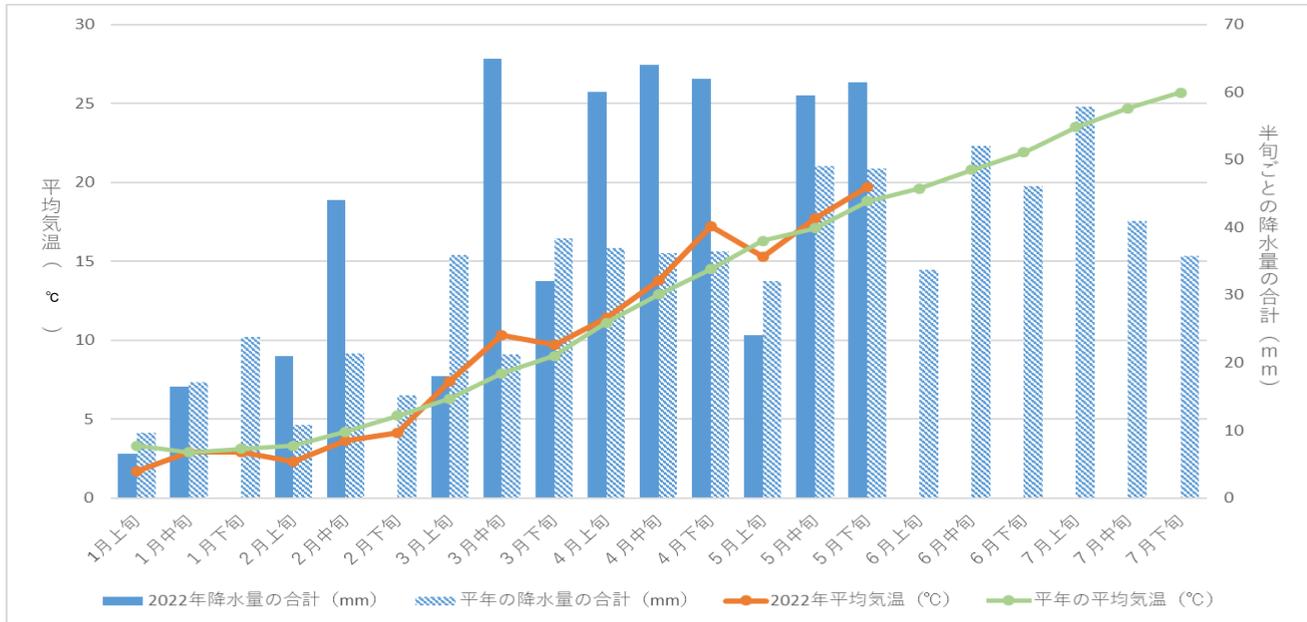


梅雨から夏場の病害防除

(1) 春先の気象概況について (観測地点:つくば市館野)

○春先は急に気温が上昇する日があり、育苗中に高温障害の心配がありました。また、4、5月は、降水量が多い月でした。

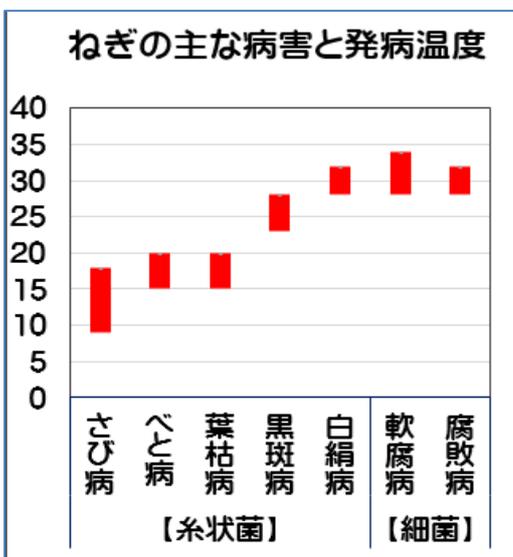


3月下旬からタマネギバエ・タネバエが、4月下旬からさび病も発生が増加しており、今後の降雨等により拡大が懸念されるため、引き続き注意が必要です。日中高温になる日が続くと、発芽や育苗中に高温障害が起きやすくなります。育苗中は温度・水分管理に注意して、換気や遮光を行いましょう。

(2) 今後の天候の見通しについて

・6月の気温は平年並～高い、降水量は平年並～多い。日射量は平年より低い～平年並みの予報です。7月は概ね平年通り、8月は平年に比べ、晴れの日が少ない予報です。

(3) ねぎの主な病害と発病温度



- ・病害を引き起こす菌には生育適温があります。今年度の気象状況を注視し、発生条件が病原菌の好適条件となる前に、予防剤を中心として密度を減らしましょう。
- ・ほ場をよく観察し、病害の早期発見と初期防除に努めましょう。
- ・異なる作用機構の農薬を選択し、抵抗性の発達を防ぎましょう。

<使用できる農薬例の一覧は裏面です>

【主な病害】



さび病: オレンジ色の盛り上がった病斑



べと病: 黄色病斑、白色や灰色のカビ



葉枯病
葉先枯れ、黒カビ



黒斑病: 同心円状の黒色病斑



白絹病: 下葉から黄化
地際からオレンジ色の粟粒上の菌核



軟腐病: 外葉から軟化腐敗・悪臭
台風や大雨で傷口から侵入

【ネギに使用できる主な登録殺菌剤】 ●有効成分が重複しているため成分カウントにご注意下さい

予防	抑制	薬剤名	対象病害					有効成分名	作用機構分類	参考事項 ※農薬特性
			黒斑病	さび病	葉枯病	べと病	軟腐病			
○		ダコニール1000	○	○	○	○		TPN	M05	残
○		ジマンダイセン水和剤	○	○		○		マンゼブ	M03	残
○	○	アリエッティ水和剤				○		ホセチル	P07	浸
○	○	オロンディスウルトラ SC				○		マンジプロバミト [*] オキサチアピプロリン	40 49	浸達
○		ヨネポン水和剤	○	○		○	○	ノルフェノールスルホン 酸銅	M01	浸
○	○	スターナ水和剤					○	オキソリニック酸	31	—
○		Zポルドー※野菜類登録				○	○	塩基性硫酸銅	M01	
○	○	モンカット粒剤						フルトラニル	7	浸・残
○	○	モンガリット粒剤						シメコナゾール	3	浸・浸達・速・残
○	○	アミスター20フロアブル●	○	○	○	○		アゾキシストロピン	11	浸
○	○	ユニフォーム粒剤●		○		○		メダキシル M	4	浸
○	○	アフェットフロアブル	○	○	○			ベンチオピラト [*]	7	残

* アミスター20フロアブルは機能性展着剤加用により薬害が発生する恐れがありますので注意してください。

【注意】1 「2021年5月13日現在の登録内容です」2 参考資料の作成に当たっては、農薬使用基準の内容について細心の注意をはらっていますが、農薬を使用する方は、必ず、**使用する前にはラベルを見て、対象作物、希釈倍率や使用量、使用回数等を確認し、農薬の誤った使用を行わないようにしてください。**農薬散布時には風向、風速、散布位置やノズルの向き等に注意し、周辺作物に農薬が飛散(ドリフト)しないよう注意して行いましょう。特に、周辺作物が収穫期に近い場合は、栽培者と情報交換することが重要です。また、農薬の安全評価に新たな手法として短期暴露評価が導入されることとなりました。それにとりま、農薬によっては使用できなくなる作物が生じたり、使用方法の変更が行われる場合があります。短期暴露評価により使用方法が変更された農薬は、農薬容器のラベルに記載された使用方法ではなく、変更後の使用方法が記載されたメーカーのチラシなど、最新の情報に従って使用して下さい。最新の情報は、農薬の販売店や茨城県病害虫防除所のホームページ等で確認して下さい。